

森の学校だより

ろうきん

森の学校

ろうきん森の学校 2017年度活動報告

市民の手による森づくり、
森との共生
Interview / Fukushima

13年目に突入！

13

20

2005-2024 労働金庫連合会 × NPO の20年にわたる環境教育



森林資源の利活用促進と人材育成の推進を

秋の収穫体験



整備した耕作放棄地で稲作を再開し、集落では行われなくなった天日干しも実施しました。

リーダー研修



主に教員を対象に、子ども達へ地域の豊かな自然と魅力を伝えられる人材育成を行いました。

Rろうきん × NIIGATA



新潟ろうきんとの森林整備活動

2017年度は、新潟県労働金庫の協力で、7回・のべ179人の参加をいただき森林整備を行うことができました。

Column

学校林をきっかけとした森への入り口づくり

新潟地区では、森林資源の利活用による経済価値化を進めることで、若者が暮らし続けることができる地域づくりを目指しています。森林資源の経済価値化を進めると言っても、都会はもちろん、地元でも関心が高いとは言えないため、まずは興味を持ってもらうことから始める必要があります。地域の共有財産として代々受け継がれている学校林を利用することで、日常的に住民が森と関わる機会を増やし、意識を変えていくことを目指します。

地域が森へ近づくきっかけとなり得る学校林



野外教育学習センター
魚沼伝習館

坂本 理事長

2017年度は活動そのものよりも、雇用や経済循環を生むための仕組み作りに多くの時間を費やしたので、2018年度は辻又地区の活性化を念頭に、活動をいかに広げるかが課題です。

新潟地区の /

オススメ体験

山の宝物さがし



未就学児を含む親子を対象とし、森に入ることのできる地域への宝に気づきます。

森のジャズコンサート



地域住民を対象に、敬和学園大学のJAZZサークルによる演奏会を行います。2018年9/16(日)開催

森林整備



辻又地区の住民を対象とし、山菜畑の草取りや作業道の整備を行います。



ろうきん森の学校を地域の財産に！

間伐材で木のお弁当箱作り



プロの木工を招き、ヒノキの間伐材で弁当箱作りを行った。独特の味わいが出た弁当箱は完成度が高く、日常での活用報告が届くほどの満足度を得た講座となりました。

木育研修 (スタッフ向け)



2016 年度に習得した木育プログラムを内部スタッフへ実施。他スタッフが内容を習得しただけでなく、各々からの意見により「ホールアースらしいプログラム」として磨きがかかりました。

R ろうきん × FUJISAN



静岡県労働金庫 新入職員研修

静岡県労働金庫の新入職員を対象に、木材を活用したチームビルディング研修や森の学校に関する講義を実施。「環境マインド」をもつ若手人材が増えていきます。

Column

富士山地区が近年注力している、活動成果の見える化。2018年度は「健康」をテーマに、自然体験が心や体にもたらす影響に迫りたいと考えています。健康はSDGsの重点項目の一つにも挙げられ、「健康経営」を標榜する企業も増えていきます。反面、自然体験活動は「なんとなく体に良い」というイメージに留まっているのが現状です。そこで本地区では、2018年度から大学の研究機関と連携し、プログラムの効果を測定する取り組みを始めています。また、アロマスプレー作り等を考案し、様々な角度から健康へのアプローチに挑みながら環境配慮が当たり前となりつつある今、社会のニーズと自然の可能性を柔軟に結びつけることが、新たな価値を生み出す源泉に

森の香りを手軽に楽しめるアロマスプレー

なることを考えます。

SDGs

『持続可能な開発目標』の略で、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2030 年までの国際目標。



ホールアース研究所
山崎 代表理事

富士山地区では、森を楽しむ活動に加え、健康増進やリラクゼーションを意識したプログラムも実施しています。雄大な景色の下、綺麗な空気に包まれながら、心も身体もリフレッシュしてみませんか。

富士山地区の /

オススメ体験

里山つなぎ隊



自らの手で里山を守るボランティア活動。個性豊かな仲間と、楽しみながら竹を切ります。

田貫湖秋まつり



地元料理や竹・木を使った様々なプログラムをご用意！秋の田貫湖でお待ちしています。
2018 年 10/28 (日) 開催

森の恵み体験プログラム～秋編～



木こりになって木を切ってみよう！その材を使って、キーホルダーやアロマ作りに挑戦します。

2018年度に、新たにに取り組むこと。

人が集う新たなものづくりの拠点を

森工塾



飛騨高山に古くから伝わる木杓子「有道杓子（うとうしゃくし）」づくり講座や、「削りかけ」と呼ばれる日本の風習を勉強する講習会を開催しました。

広葉樹の更新勉強会



広葉樹の森の持続性とのづくり利用を両立させることを目的に、広葉樹の更新を考える勉強会を開催。先進事例の紹介と、森でのフィールド学習を行いました。

NPO 法人
グリーンウッドワーク協会
小野 理事長



古城山ふれあいの森に「ろうきん森の工房」が完成しました。講師の方やNPOの会員さん、ワークショップ参加者の方やろうきんの若手職員などたくさんの方に手伝ってもらい、思い入れの深い工房になりました。

／ 岐阜地区の ／

オススメ体験

足踏みろくろで木の器づくり



伐採したばかりの森の木を使って、人力の足踏みろくろで器をつくります。

R ろうきん × GIFU

東海労働金庫
デイキャンプ

東海労働金庫の家族向け企画として竹を使った流しそめんと水鉄砲づくり体験、若手職員研修として工房建設作業や、森の散策道づくりのお手伝いをさせていただきました。

Column

みんなの力で森の工房が完成！

2017年度は森の工房をワークショップ形式で建設しました。森のため夏でも涼しく、足元がデッキなどの作業もしやすいと参加者さんからも好評です。このデッキでテント泊も体験でき、講座の幅が格段に広がりました。

2018年度からはグリーンウッドワークに興味を持っていく方と一緒に森林整備を行い、生木を持ち帰ってもらうイベントも計画中です。

みんなで力を合わせて完成させた森の工房

また、美濃市内の小学校の廃校舎を利用した工房「みの木工工房 FUKUBE」が6月にオープンします。ここを第二の拠点として、講座のための製品開発や、屋内のプログラムを開催していく予定です。このような事業を通じてものづくりや、森づくりに関心のある方々が交流できる場所を作っていきたいと考えています。

グリーンウッドワーク

伝統的な手工具を使い、生木を割ったり削ったりしながら小物や家具をつくるものづくり。

竹ひごからつくる竹細工講座



丸竹を割るところから始める本格的な竹細工講座です。

モノコの森づくり



4年目を迎えるマイタケ栽培、今年はマイタケ発生メカニズムに迫ります。

HIROSHIMA



より幅広い世代に自然体験や環境教育を



夏の分校 1/2 ケ月

13 泊 14 日の長期自然体験。長期だからできる子供同士の関係性やコミュニケーションの深まりが見られました。大うなぎも取れました。



里山シニア大学の開校

「シニアの力で里山を元気に」をテーマに里山を「学ぶ・遊ぶ・保全する」10 回講座。知識や技術を学びつつ、童心に帰って楽しく過ごしました。



ひろしま自然学校
志賀 代表理事

2017 年度は「次代を担う人づくり」に力を入れ、各事業と一緒に運営するボランティアスタッフの幅も広がってきました。2018 年度は、森の妖精くらぶやアースキーパーなど新たな挑戦が始まります。

／ 広島地区の ／

オススメ体験

森の学校フェスティバル



森でカメラや木工クラフトなど様々なコーナーを楽しめます。森の音楽祭も開演します。

R ろうきん × HIROSHIMA



労福協環境保全 親子ふれあい体験活動

広島県労働者福祉協議会が主催する環境保全親子ふれあい体験活動。大人は森の中、里山整備作業、子ども達は木工クラフトなどの自然体験を行いました。

Column

アースキーパープログラムを実施！

アースキーパーは、アメリカに本部がある地球教育研究所により「地球教育」の考え方に基づいて作られた 10 ～ 11 歳向けのプログラムです。「Understanding: 地球のしくみを知る」「Feeling: 地球への愛情を育む」「Processing: 地球に配慮した行動をする」という 3 つのステージを 3 ヶ月かけてトレーニングします。いわゆる野外教育や自然体験活動とは異なり「環境に配慮した行動ができる人を育てる」という環境教育本来の目的を達成するためのチャレンジとして、2018 年度はこのプロジェクトの始動に全力を注いでいきたいと考えています。

行動する人を育てるアースキーパープログラム



森の妖精くらぶ



森で親子の時間を楽しむ 4 回シリーズ。幼児教育を学んでいる学生たちと運営します。

オトナ女子リフレッシュキャンプ



森でリラックス・リフレッシュ・リフレームの 3R を体験し、心身の健康増進とやる気を養います。

市民の手による

森づくり、

森との共生

2017年度は、湯ノ岳山荘敷地内に自然エネルギー学習施設として太陽光・風力・水力の発電施設の集約化と水車による石臼設備を作りました。2018年度は、太陽熱利用とバイオマス利用の施設整備を行っていききたいと思います。

いわきの森に親しむ会

理事長 木田 章一



ろうきん森の学校スタート時から取り組む福島地区。海と山に囲まれた広大な地域を持ついわき市の湯ノ岳山荘に拠点を置く、NPO法人いわきの森に親しむ会の木田理事長にお話を伺いました。

いわきの森に親しむ会とは

2001年7月から9月の間、森との共生をテーマに開催された「うつくしま未来博」での『森のネイチャーツアー&森の学校』がきっかけです。かつてはどこにでもあった

里山を市民の手によって再生し、その里山で市民が「安全に気軽に楽しく」利用できる仕組みを作ることを目的に、有志が集まって2001年10月に設立しました。

その後、現在拠点としている「湯ノ岳山荘」の指定管理者となるため、2004年6月にNPO法人の認証を取得しまし

た。会員は、定年を迎えた人が約9割、残りも50代が多く、会員数は約140名です。

活動内容は4つの班（農業・木工・森林整備・プログラム）に分かれて定例活動をしています。

木田さん自身が活動に参加するようになったきっかけ

私は以前、湯ノ岳山荘を所管するいわき市役所に勤務していましたが、そこで検討していたのが利用者の少ない当施設の廃止でした。施設の正式名称は、林業研修センター湯ノ岳山荘といいます。内部は木がふんだんに使われ、木の温もりが感じられます。この施設を廃止にするのは後に後悔

すると考え、市の上層部に掛け合い、利用者を増やすことを条件に「存続させる」ことができました。在職中に、当会の設立に関わり現在に至っています。3年前の定年を機に松崎前理事長から引き継ぎ理事長となりました。

ろうきん森の学校スタートから13年

地域にもたらした変化

毎月第3日曜日に行っている、「ろうきん森の学校自然体験活動」は、広

く市民に周知され親子での参加者も多く、市民が身近な里山に関心を持つきっかけとなっています。2017年度は年間の参加者が500名を超えました。

里山における自然体験活動を湯ノ岳フィールドで体験することにより、2018年度から、地元労働組合の若手メンバーが、子ども達の遊び場の整備に参画してくれるようになりました。

小学校の環境教育支援では、多くの小学校から支援要請があり、2017年は、小学校8校、幼稚園1校の支援を行い、児童や教師に喜んでもらっていますが、市内には小学校が64校あるなかで、現



労組若手メンバーによる整備

FUKUSHIMA

福島地区のメインフィールド 湯ノ岳エリア



高速の湯本インターチェンジから約5分の場所に宿泊施設「湯ノ岳山荘」があり、当会では指定管理者としてこの施設を管理するとともに事務所を置いています。敷地は約15haあり、観察路、木工工作棟、ピザ釜、自然エネルギー学習施設があります。3年前より、昔栗園だった場所を、15年計画でクヌギの薪炭林として整備中です。

福島県いわき市は こんなとこ！



ろうきん森の学校福島地区の位置する福島県いわき市は、福島県浜通りの南部に位置し、福島県内で最大の面積と人口を有する都市です。最寄りのJR常磐線湯本駅までは、東京から特急を利用して2時間あまりでアクセスできます。

また、活動拠点の湯ノ岳山荘の近くには、映画「フラガール」で有名になった、「スパリゾートハワイアンズ」があります。この他に、日本三古泉の1つに数えられる湯本温泉や、海洋ミュージアム「アクアマリンふくしま」もあり、見どころがいっぱいです。

海と山に囲まれた自然豊かな地域です。

森の自然体験活動



毎月第3日曜日に開催している「ろうきん森の学校自然体験活動」と各種自然体験活動は、午前中は自然観察会と各種自然体験活動、昼食後は子ども向けの木工クラフト教室を行っています。

活動にあたっては、会員が高齢化していることから、今まで以上に「安全第一」をモットーとした活動を心掛けて取り組んでいきたいです。

2018年度は、2年計画で取り組む湯ノ岳フィールドにつくる「子ども達の遊び場作り」の初年度に当たります。地元労働組合の若手が参画し

現在、約140名の会員の活動への参加率の向上を第一とした上で、新規会員の獲得を考えています。また、現在の会員がいかに多く、会の活動に参加してもらおうことができるかも課題です。

活動する上での課題と 2018年度の目標

状のスタッフ数では、これ以上支援校を増やすことは難しい状況です。

てくれることになったので、これを是非成功させたいですね。また、国際ワークキャンプの受け入れの中に、地元若者の参加を実現させることも目標です。

これから参加してみよう と 思っている方へ

当会では、毎月第3日曜日に定例のろうきん森の学校自然体験活動を開催しています。午前中は1時間半程度、季節をテーマとした自然体験活動を実施します。昼は旬の野菜を使った料理。午後は子どもが喜ぶ木工クラフト等を実施しており親子で楽しめます。また、不定期ですが、ホテルの観察会や夜の生き物観察等も実施しています。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

自然案内人養成講座



日本自然保護協会の専門講師によるスタッフ対象の研修会を毎年実施しています。また、2017年からは、本会会員が指導者となった自然案内人養成基礎講座を実施しています。

海岸林整備活動



東日本大震災では、海岸林により多くの人命・建物が津波被害を免れましたが、海水を被ったことから多くの松が枯れてしまいました。そこで、松の植樹や下刈作業に全国から多くのボランティアが来てくれています。

持続可能な社会への プレーヤーとして

「ろうきん森の学校」と「SDGs」の関わりについて、一般社団法人
SDGs 市民社会ネットワークの今田克司さんにインタビューしました。



一般社団法人
SDGs 市民社会ネットワーク
今田 克司 氏

1990年代に米国西海岸でNPO活動を始め。以後、国内外において主に市民社会強化の分野でNPOマネジメントの仕事に関わる。一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク業務執行理事。認定NPO法人日本NPOセンター副代表理事。一般財団法人CSOネットワーク代表理事。

「ろうきん森の学校」の取り組み
をSDGsの視点で見るといかが
でしょうか。

これだけ長期にわたる活動が全国各地で継続されている事例は珍しいですね。SDGsの観点からも有意義な活動だと思っています。まずお伝えしたいのは、SDGsで掲げられている17の目標は包括的に見ることが大切だということです。例えば、「ろうきん森の学校」の活動は4（質の高い教育をみんなに）や15（陸の豊かさを守ろう）との関わりが大きいことは間違いないと思いますが、体験プログラ

ムの内容によっては3（すべての人に健康と福祉を）や7（エネルギーをみんなにそしてクリーンに）、12（つくる責任 つかう責任）などにアプローチすることも可能でしょう。金融機関の活動であることを鑑みると8（働きがいも経済成長も）の視点も意識したいですね。また、例えば、15に関する取り組みの結果が3や7に影響したり、4の活動が12につながる可能性もあったり、そういった目標間の関連を意識すると、SDGsの「うまみ」が増すと思います。

「なるほど。17の目標を包括的に捉え
ると可能性の広がりを感じますね。」

大切なのは、17の目標や169のターゲットに目を通しながら、それらにコミットするためのアイデアをふくらませることだと思います。長期の活動が約束されている「ろうきん森の学校」だからこそ、できることもありそうですね。

「目標の1から15に比べると16と
17がやや異質に見えるのですが。」

そうかもしれませんがね。16（平和と

公正をすべての人に）と17（パートナーシップで目標を達成しよう）は1から15に横串を通し、各目標がこま切れにならないようにしている」と読めます。市民活動に大切な市民参加の視点は、16に組み入れられています。

「17には「パートナーシップ」とい
う言葉が出ていますね。」

SDGsはグローバルな目標であるゆえ、「どこか遠くの人や組織が言っていること」と捉えられがちですが、その策定過程では市民社会も参画していますし、セクターを超えた連携により実現していくことが前提となっています。つまり、どこかの誰かが実現するのではなく、紛れもなく、私たち一人ひとりもその重要なプレーヤーだということを忘れてはいけません。もちろん、ろうきん森の学校が大切にしている「地域」も欠かせない主体です。

インタビューを終え、こうした国際目標は、いかに自分事に落とし込むことができるかが大切だと感じました。森の学校の活動でも意識していきま

（富士山地区 山崎 宏）



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

「SDGs」(持続可能な開発目標)というキーワードを目にする機会が増えてきています。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記された2030年までの国際目標です。前文では「誰一人取り残さない」という理念が述べられ、環境・経済・社会を持続可能にしていく上での様々な課題を根本的に解決することを目指し、17の目標と、各目標を細分化した169のターゲットが掲げられています。

全国5地区で展開されている「ろうきん森の学校」での SDGsの考え方や目標に沿った活動例紹介



人工林内の植生調査



足踏みろくろで木の器づくり



夏の分校1/2ヶ月



〈目標 15〉
陸の豊かさも守ろう

整備している人工林内において、発芽する植物種および埋土種子を調査。潜在自然植生を明らかにし、地域の人にとって望ましい森林環境を提案する。



〈目標 12〉
つくる責任つかう責任

木材を利用し、人力の道具を駆使しながら、自らの手で器を製作するプログラム。芯の位置や刃が当たる角度など、自らの経験と感覚が頼りになるシーンが満載。



〈目標 4〉
質の高い教育をみんなに

西中国山地の自然豊かな山里にすむ人々の生活・文化に触れながら、豊かな感性を育むとともに、自然や人々の暮らしについての理解を深めるプログラム。



世界を変えるための17の目標

17の目標がカラフルなアイコンで示されています。アイコン内には限られたキーワードのみが記されていますが、国連や行政機関、SDGs関係のNGO等のウェブサイト等には、目標の背景や詳しい内容が掲載されています。



ABOUT

ろうきん森の学校とは



森を育てるような長期的視点で 人材を育成することを目的とした 環境教育事業

ろうきん森の学校は、2005年から2024年まで20年間
にわたって取り組む、労働金庫連合会と全国5つのNPO
による環境教育事業です。2017年度はのべ18,333人が
参加し、累計参加者数は17万人を超えました。2017年
度は新潟・岐阜地区での活動も本格化し、ろうきん関係
者と連携した活動が広がりました。



豊かな里山の 再生

荒廃した里山の整備を通じ
て、生物多様性を取り戻し、
地域の自然を再生。



人材の育成

安全で楽しいプログラムを通
じて、環境教育的
視点を持った人材を育成。



自然体験 プログラムの 実施

里山を活かした自然体験プ
ログラムを通じて、健康維持
と精神的な安らぎを提供。



ろうきん 関係者への 研修実施

ろうきん関係者の参加を通じ
て、環境意識の醸成とコミュ
ニケーションの促進を図る。

FIELD

現地事務局情報

本誌で掲載している体験の詳細は、下記の各拠点へお問い合わせください。

福島地区

NPO法人 いわきの森に親しむ会

〒972-8326

福島県いわき市常磐藤原町湯ノ岳2湯ノ岳山荘内

Tel. 0246-44-3273

Fax. 0246-44-3273

Mail yunodake@gray.plala.or.jp

Web iwaki-mori.jimdo.com/

新潟地区

NPO法人 野外教育学修センター魚沼伝習館

〒949-7319

新潟県南魚沼市市野江丙661

Tel. 025-793-7320

Fax. 025-793-7321

Mail info@uonuma-denshukan.com

Web www.uonuma-denshukan.com
www.uoden.net (2018年8月末 開設予定)

富士山地区

NPO法人 ホールアース研究所

〒419-0305

静岡県富士宮市下柚野165

Tel. 0544-66-0790

Fax. 0544-67-0567

Mail forest@wens.gr.jp

Web wens.gr.jp/

岐阜地区

NPO法人 グリーンウッドワーク協会

〒501-3701

岐阜県美濃市2973番地1

Tel. 090-4793-9508

Mail greenwoodworker@gmail.com

Web www.greenwoodwork.jp/

広島地区

NPO法人 ひろしま自然学校

〒733-0012

広島市西区中広町2丁目24-5-302

Tel. 082-208-4146

Fax. 050-1029-6367

Mail nkk5408@gmail.com

Web moricafe.sakura.ne.jp/



この事業は「国連生物多様性の
10年日本委員会 (UNDB-J)」が推奨する
事業として認定を受けています。

INFORMATION

「ろうきん森の学校」に関するお問い合わせは
全国事務局（ホールアース研究所）まで



forest@wens.gr.jp

ろうきん森の学校

www.mori-gakko.net

検索



「ろうきん」の活動に関するお問い合わせはこちら

労働金庫連合会 総合企画部

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5-15

Tel. 03-3295-9332 / Fax. 03-3295-9328

Mail rokinren_mori@rokinbank.or.jp

Web www.rokinren.com/csr/